

## 令和7年度岐阜県美術館協議会 議事要旨

1 日 時：令和8年2月4日（水） 15：00～16：10

2 場 所：岐阜県美術館 特別応接室

3 出席者：【委員】

村瀬会長、矢島委員、渡部委員、小野寺委員、地守委員、河西委員、熊崎委員、岸委員、佐木委員、安田委員（欠席：猫田委員、所委員、林委員、須藤委員、中垣委員）

【県】

美術館：日比野館長、中根副館長、正村副館長、青山課長、廣江担当主幹、  
竹内課長、河合係長、鳥羽係長、林係長  
文化伝承課：市岡課長、清水係長、笠井課長補佐

4 議 題：令和7年度の美術館事業について  
令和8年度の美術館事業について

5 議事要旨：

（事務局） 令和7年度及び令和8年度の美術館事業について説明。

（熊崎委員） 作家の制作課程が見学できる展示（AiM）はほとんどないので継続してほしい。また、歴史に埋没し、忘れられてしまう郷土作家の作品を取り上げ、世に出してもらえる展示も続けて行ってほしい。

（岸委員） 「ふらっとば〜く」展のように観るだけではなく体感するとか、関わるとか、何かを見出すというアプローチが非常に面白いと思った。また、AiMでは作家と関わって何かそこで生まれる、アートまるケットでは五感的に普段感じられない感覚を与えるという様々なアプローチがあり非常に興味深かった。美術館から見て、鑑賞者や受け止め方の変化など何か気づいたことはあるか。

（正村副館長） 日比野館長が始めた「Such Such Such」の影響が大変大きい。そのほかワークショップギャザリングなどを実施し、様々な美術館の取組みが根付いてきたと感じている。

（岸委員） 美術館とは縁遠い視覚障害者の方へのアプローチもあったと思うが、そういった蓄積が幅広い来館者に対するサービスである。

（青山課長） 当館だけでなく、メディアコスモスでも手で触れるアートの展覧会が毎年開催されるなど、障がいを持つ方のアートに触れるという

活動がごく自然に行われるようになってきている。また、TASC ぎふの地道な活動が非常に大きな影響を与えている。

(佐木委員) 幼児にとって「美術」、幼児教育では表現活動というが、幼児期の子どもの成長発達にとって大変有効な方法である。美術館のナンヤローネアートアクションのような、子どもが自分で面白そう、やってみようと思える本物の場が美術館だと思う。私は美術館にとっても期待している。

(日比野館長) 鑑賞の方法や絵の見方に正解はない。ましてや幼少の子どもたちには美術館だという認識もない。美術館は、「鑑賞する場」と「ワークショップを行う場」に分かれているのが現状。この分かれたふたつの「場」を一緒くたにした展覧会「えをみてえをかく展覧会」を来年度開催する。これは、まさに美術館の中で絵を描いてもいいということ。鑑賞と表現が一緒になるような空間をつくっていかうと考えている。

(安田委員) 来年度の「フランス近代絵画の祝宴」がとても楽しみ。日動美術財団との協力の展覧会のようなのだが、パレットの展示はあるのか。作品自体と、その過程も楽しめるところが過程展示の面白いところだと思う。

(廣江主幹) 寄贈いただいた作品と笠間日動美術館のコレクションをご紹介します。いつかパレットと自画像の展示も実現したい。

(河西委員) 岐阜県美術館は、すばらしい彫刻のコレクションを持っているので、数年に一度でも彫刻が観られる展示があるとよい。  
展示室4の照明がLEDになり綺麗になったが、スポットライトが使えないので、使用できるとよい。また、壁の汚れも目立つのでしっかり予算を確保し、継続的に改修してもらいたい。

(地森委員) 会議の前に企画展を案内してもらったが、とても説明がよかった。一般の方にもこういった学芸員の説明をしてもらえると楽しめると思う。

(小野寺委員) 企画展の説明を受けたがチラシではその内容が伝わってこない。ので、伝えられるとよいのではないかと。また、来館者に割引券などを配布し、実際に美術館に来館するかどうか人の流れを調べるのも面白いと思う。

- (渡部委員) 入館者目標値の根拠がよくわからない。目標値が昨年度より少ないのはなぜか。  
また、最近はPRは新聞だけではなく、SNSを活用しているが、工夫していることはあるか。
- (竹内課長) 入館者数に関しては、過去の類似した展覧会をベースに設定している。そのため、展覧会の傾向等で入館者数が増減している。  
その他教育普及事業等の入館者数は過去3年間の平均値から算出している。
- (正村副館長) 広報に関しては、紙媒体では効果が出ないため、最近ではWEB広告などデジタル的なメディアに注力するようにしている。
- (林係長) SNSに関しては、スピード感が最も重要になるため、イベント当日にSNSにアップするなどスピード感を加速している。
- (矢島委員) 「フランス近代絵画の祝宴」で共催させてもらおう。ピカソやシャガールなど大変著名な作家の作品があるので大変明るい企画展になると思う。ルドンコレクションが四季を通じて展示されるのも素晴らしい。
- (日比野館長) 集客に関する話題にもなったが、PR、広報は長年の課題である。他県では、企業の研修の場として美術館を活用しているところもある。対話型鑑賞などが意見を言い合うことができるため、研修の効果があると言われている。こういったこともアートの可能性を広げるし、集客にも貢献する。岐阜県美術館にはアートをどう楽しんでもらおうかということを考え活動しているアートコミュニケーターの「ながラー」というチームもいるので、アートの可能性を広げていくようないろいろな試みをしていきたい。

以 上